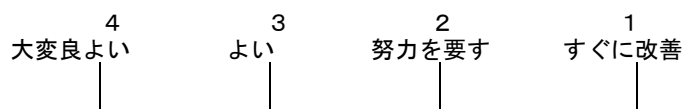


【学校教育目標】

「生きる力」のある児童の育成

【本校の教育課題】

- 就労できる学力の向上
- 豊かな心育成
- 確かな学力の向上
- 健やかな身体づくり



領域	項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価 ※評価委員会後、文書にて提出（ ）内の数値は評価。	自己評価を踏まえた改善策
一 基本的 生活習慣の 確立	1	遅刻児童を減らす。 ○40日以上遅刻者15名以内 1/24現在・・・2名(資料①参照) ※ほとんどの児童が遅刻せずに登校できている。 ※生活のリズムが確立されてきている。	2.9	○8時15分までに徒歩登校完了。それ以降は車での送りです。保護者との密な連絡の成果だと思えます。	○生活のリズムづくりに向け、連絡を密に行うなど保護者との連携を強める。
	2	徒歩登校児童を増やす。 ○75%以上(晴天時) 1月現在・・・平均71.9%(資料②参照) ※不審者事案が報道されるたび、車での送りが多くなっている。	2.4	○車から降りて、途中からでも歩いて登校する児童が昨年より増えたと思えます。 ○今後も地域と保護者で見守っていきたいと思えます。	○学校までの距離を示した標識を立てたり、通信などで徒歩登校のメリットを知らせることで、徒歩登校の意欲づけを図る。
	3	不登校児童を減らす。 ○30日以上欠席者2名以内 1月現在・・・0名(資料①参照) ※欠席した児童の実態把握を行うため、2日続けて休んだら家庭訪問するように徹底した。	3.0	○不登校対策の家庭訪問など先生方の熱意が伝わってきました。	○家庭への連絡を密に行うなど、児童や保護者との信頼関係を築く。 ○「わかる授業」「楽しい授業」の充実を図る。
	総見	○本年度は明らかに病気欠席と思われる場合は、「不登校」としては扱っていない。ただ、保護者の中には「超過保護的な親」もいて、少しの体調の悪さでも安易に休ませるケースもある。徒歩登校させずに、車で送ってくる保護者の中にも「子どもに甘い親」が多い。子どもたちの「耐性」を鍛えていく意識をいかに親にもってもらうかが課題である。ブレることなく粘り強く保護者啓発を行っていききたい。			
二 豊かな 心づくり	4	元気よくあいさつできる児童にする。 ○「あいさつ」児童の自己評価70%以上(7月：よくできる・・・59%) 1月調査：よくできる38%だいたいできる49%(資料③-1参照) ※徒歩登校をしてくる児童の中には礼儀正しく「おじぎあいさつ」をする児童が着実に増えている。	2.8	○警察官、交通安全ボランティアの方、そして止まってくれた車にあいさつをする児童が増えています。	○学級・学校全体での「あいさつ運動」を強化していく。 ○教師が率先して気持ちの良いあいさつを行う。(同僚や保護者・児童に対して)
	5	生活のルールなどを守る規範意識を高める。 ○「チャイム席」児童の自己評価70%以上(7月：いつも守れている・・・61%) 1月調査：いつも守れている55%だいたい44%(資料③-1参照) ※学校全体、チャイム席が当たり前のようにできるようになっている。高学年が良いお手本を示している	3.3	○ルールを守る意識が毎日の習慣によって身についてきていると思えます。遅刻が減少しているのも、その表れだと思えます。	○チャイム席の質の向上を図る。(学習準備まで済ませておくこと)
	6	笑顔で「ありがとう」が言える児童にする。 ○児童の自己評価70%以上(7月：笑顔で「ありがとう」・・・40%) 1月調査：笑顔で「ありがとう」30%ふつうに67%(資料③-1参照) ※学級で帰りの会などで「いいとこ見つけ」を行っているため、お互いに感謝の気持ちを伝えやすい温かな学級集団づくりができています。	2.7	○笑顔のない怖い顔をした保護者もいます。「お母さんの笑顔」は子どもの緊張をほぐし、勉強の効果が上がるとも言われています。家庭環境も大切だと思えます。	○帰りの会での「いいとこ見つけ」など、子どもたちの良さを引き出す指導を継続・強化していく。 ○教師が率先して「ありがとう」の声かけを行う。
総見	○「叱る指導よりも、ほめて伸ばす指導を！」を合言葉に、「いいとこ見つけ」などを積極的に取り入れながら、また、全校集会の場でも子どもたちの頑張りを良さを評価しながら温かな雰囲気づくりに努めてきた。以前に比べて、朝登校してくる児童の表情にも笑顔がたくさん見られるようになった。学校生活を楽しみにしている児童が増えている。職員の指導の賜物である。				
三 確かな 学力づくり	7	人の話をしっかり聴ける児童にする。 ○児童の自己評価70%以上(7月：よくできている・・・52%) 1月調査：よくできている49%だいたい45%(資料③-2参照) ※終始業式や全校集会などでの話を聴く態度は素晴らしく良くなっている。私語をしたり遊んだりせず、集中して話を聴けている。学習中も落ち着いて話を聴く態度が定着し、真剣に学習することが当たり前になっている。	3.0	○先生ははっきりと大きな声で説明をし、黒板には分かりやすく字を書き、児童は手をあげて発表していました。先生たちの熱心な授業でした。 ○音読の発表では聞く態度、発表する態度がとてもよく感動しました。	○子どもたちが、より集中できるような質の高い授業を目指す。
	8	読書量を増やす。 ○図書貸出数一人40冊以上(全校1万冊以上) 1月15日現在：目標達成者約11%、7650冊(資料④参照) ※本年度、「読書ポイントカード」の取組を取り入れ、子どもたちの意欲づけを図ったが、思うように伸びてない。「読書の重要性」を再度確認し意図的に読書の場を設定するなど、取組を強化していきたい。	2.6	○本を読むことによって、話し方も上手になり、文章を書くことも上手になります。家庭環境にも大きく左右されると思えます。 ○保護者(大人)も楽しめる本の紹介をするのも良いと思えます。 ○保育所でも本の貸し出しをしていますが、いつも同じ子が借りていない実情があり、保護者への働きかけの必要性を感じています。	○朝の読書タイムを発展、充実させる。 ○すきま時間など読書時間を確保し、読書環境づくりを行う。
	9	家庭学習(特に「自学」)の習慣づけを図る。		○孫が二人います。時々遊びにきます。手を洗いうがいをした後、すぐに宿題をします。今は計算の音読もあるのです。	○「自学」の内容を充実させる。

	<p>○「自学」児童の自己評価70%以上 (7月:必ずしている・・・58%) 1月調査:必ずしている61%だいたい24% (資料3-2参照) ※自学の習慣は定着してきている。低学年では宿題をしっかりとやり遂げること、家庭学習の習慣づけを身につけさせ、「自学」の基礎づくりを行っていききたい。</p>	2.9	ね。びっくりしながら聞いてあげています。宿題は家庭の躰ですね。	○家庭学習の習慣を定着させる。(まずは宿題をするのが当たり前という意識を持たせる) ○頑張っている児童に「ごほうびシール」を与えたり、全体に紹介したいです。
	<p>総合所見 ○全国学力状況調査や福岡県学力診断テストの結果から、「読解力」の低さが課題であると分析している。問題の意味を読み取れず、解答することができない無解答児童が多い。来年度は「読解力」を高めるために「読書量」増やす取組や言語(書く)活動を重視した授業改善を図っていく必要があると考えている。</p>			
四 健やかな身体づくり	<p>10 体力(耐力)づくりを行う。 ○全クラス基礎トレーニングの導入 体力テストの結果より(資料5参照) ※本年度は嘉麻市が推進しているコオディネーショントレーニングの研修を行ったので、それを活かした基礎トレーニング内容のプログラムを作成して全校で取り組んでいきたい。</p>	2.3	○暖かい日の休み時間は子ども達の声が響いてきます。運動場で遊んでいる声です。基礎トレーニングのプログラムの取組、楽しみです。 ○保育所でもコオディネーション運動に取り組んでいますので、小学校での取組に期待しています。	○基礎トレーニング内容のプログラム化を図り、学年共通のトレーニングを行う。
	<p>11 「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣づくりを行う。 ○朝ご飯を必ず食べる90%以上 (7月:毎日食べている・・・84%) ○10時まで就寝70%以上 (7月:毎日寝ている・・・43%) 1月調査より: 朝ご飯を毎日食べる80%だいたい18% 10時まで就寝:毎日寝る35%だいたい138% (資料3-3参照) ※朝ご飯の摂取率はかなり高いが、就寝時間が遅い児童が多いので、「生活のリズムづくり」を粘り強く呼びかけていきたい。</p>	2.9	○3つの習慣づくりを行って、何年もたつと思います。朝食をとっていない子がいるのですね。昼食までもたんでしょ。保護者の大きな責任です。	○懇談会や保健だよりや学校だより等を通じて、保護者啓発を継続して行う。
	<p>12 「自分の命を自分で守る」意識を高める。 ○交通事故、不審者被害0名 本年度、大きな事故は0件。 ※本年度、不審者対策として、防犯教室を2回実施した。(嘉麻署による「110番の日」の取組を含む)</p>	3.6	○「事故ゼロ」は素晴らしいことです。防犯教室が子どもたちの防犯意識を高めたと思います。子どもたちの安心・安全は保護者、地域の者にも大きな責任があります。	○安心メール登録を呼びかけ、情報提供を密に行う。
	<p>総合所見 ○子どもたちの「体幹」の弱さからか、座位の姿勢が悪い子どもたちが多く、背骨を真っ直ぐに伸ばすためにも「体幹」を鍛えるトレーニングの必要性を感じている。また、徒歩登校を頑張ることで、「早寝・早起き・朝ご飯」の生活のリズムが定着してきた子もいるので、徒歩登校を強く推奨していきたい。</p>			
五 保護者地域との連携	<p>13 親子の会話を増やし、基本的な生活習慣の確立を図る。 ○音読カード、保護者アンケート、家庭教育宣言ノートの提出率(90%以上) 音読カード提出率: 88.6%。(資料6参照) ※高学年の音読カード提出率が低い。親子の会話を増やす取組として「音読」が有効か否か、それに変わるものとして何かあるのかを検討する時期に来ている。</p>	3.0	○保護者の意識の問題だと思います。	○保護者の意識を高めるための様々な取組を充実させる。
	<p>14 地域の「人・もの・こと」の活用を積極的に行う。 ○全学年年間3回以上の活用 全学年で3回以上実施 ※直接体験により、学びの質を高めることができた。</p>	3.0	○教科書で学んでも、実際の体験によって地域住民との交流を深め、「生きる力」を身につける貴重な時間だと思います。	○本物(フロ)との出会いなど、体験学習をさらに発展・継続させる。
	<p>15 保護者と課題を共有し、連携して子育てに取り組む。 ○全学年、学年:学級通信を毎週発行 全クラス、学級通信を発行 ※子どもたちの作文や日記を紹介する通信が増え、「学級の様子がよくわかる」という保護者の声が多数寄せられている。</p>	3.3	○学校だより「生きる力」学級通信は保護者にとって最大のコミュニケーションだと思います。大好評です。学校だより毎月ありがとうございます。	○子どもの良さ、頑張り、成長している姿を紹介するなど、内容をさらに充実させる。
	<p>総合所見 ○保護者・地域との連携は、落ち着いた学校生活を送っている子どもたちの姿を見せることから始まる。子どもたちの笑顔があふれる学級・学校づくりを推進していくことで連携を強めていきたい。</p>			